令和 7 年 9 月 11 日
茨城県病害虫防除所

病害虫速報 No. 4

トマト黄化葉巻病が平年より多く発生しています。
タバココナジラミの防除を徹底しましょう！

トマト黄化葉巻病は、タバココナジラミが媒介するウイルス病です。発病してからの治療はできないため、タバココナジラミの防除が重要です。

県内の抑制トマト栽培圃場で実施した巡回調査では、黄化葉巻病が平年よりやや多く発生していますので、タバココナジラミの防除を徹底しましょう。また、近年、促成トマトにおいても、黄化葉巻病の発病株率が高い状況です。育苗期から定植後のタバココナジラミの防除を徹底し、生育初期のウイルス感染を防ぎましょう。

［現在の発生状況］

① 9 月上旬現在、抑制トマトにおける黄化葉巻病の発病株率、発生地点率ともに平年よりやや高い（表）。過去 11 年の調査結果と比較すると、多発した令和 6 年度に次いで 2 番目に多い。

② 前作の促成トマト（令和 6-7 年）における黄化葉巻病の発生は、平年より多かった（データ省略）。

表　抑制トマトにおける黄化葉巻病の発生状況

（令和7年9月上旬調査）

発病株率（%）			発生地点率（%）		
本年値[1)]	平年値[2)]	順位[3)]	本年値	平年値	順位
11.0	6.0	2	80	46	2

1）県央2地点、鹿行3地点における調査結果。
2）平年値：過去10年間のデータの平均値。
3）順位：本年を含む過去11年間における本年値の順位を示す。

［防除上注意すべき事項］

〈作型共通〉

① 発病株は伝染源となるため、速やかに抜き取り、適切に処分する。
また、管理作業で摘除したわき芽、葉、果実はタバココナジラミの増殖源となるため、ハウス周辺に放置しない。

② タバココナジラミの施設内への侵入および施設外への飛び出しを防ぐため、開口部に 0.4mm 目合い以下の防虫ネットを設置する。なお、施設ビニルや防虫ネットに破損がある場合は必ず補修する。

③ 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、タバココナジラミ成虫を捕殺する。

④ タバココナジラミは多発生すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。

［防除上注意すべき事項　続き］

〈作型共通〉

⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。タバココナジラミの薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

⑥ 黄化葉巻病耐病性品種は、ウイルスに感染しても発病は抑制されるが、感染株は本病の伝染源になるため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。

⑦ 雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。また、野良生えトマトは伝染源となりやすいので見つけ次第処分する。

〈抑制トマト〉

① 病原ウイルスを保毒したタバココナジラミのハウス外への飛び出しや次作への持ち越しを防止するため、栽培終了時まで防除を徹底する。栽培終了後には、株を誘引したまま根を引き抜き、2 週間程度ハウスを密閉し、蒸し込みを行い、タバココナジラミを死滅させる。また、薬剤処理による古株枯死を行うことも効果的である。

〈促成トマト〉

① 生育初期に感染すると被害が大きくなるため、育苗期から定植後の定期的な薬剤散布および定植時期の薬剤処理により、タバココナジラミの防除を徹底する。

② 定植前に苗をよく観察し、新葉の退緑がみられる苗やタバココナジラミが発生している苗を本圃に持ち込まないよう注意する。

写真 1　頂部の萎縮症状

写真 2　葉の退緑症状

写真 3　タバココナジラミ成虫